

声優学科

2年次生

学科名	声優学科
科目名	言葉の基礎・応用編 I
担当講師名	滝沢ロコ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はぶろだくしょんバオブバ、東京芸術座に所属し、アニメ、外画、ナレーション、舞台公演等、声優俳優として、演出家としての実務経験を持ちます。

授業内容

1 年次履修の「言葉の基礎」をもとに、収録現場で使われているアクセントや法則を自在に使えるよう習得し、美しい日本語を身に着け、滑舌の良い、堪能な朗読術台詞術への道をつなげます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・複合子音の正しい発音ができるようになります。
- ・アクセント、母音の無声化等の法則の徹底習得を目指します。
- ・適宜、サブテキストを使用し、長文の基本的音読の完成を目指します。

授業計画（1 回目から 7 回目）

- ① 前期の復習と確認、長文の音読口唇トレーニング、サブテキスト「防災気象情報」
- ② 複合子音の練習題その 2 「 g j 」：より高度な発音を正しくできるよう学びます。
- ③ 複合子音の練習題その 3 「 n j 」：更に美しい発音と正しいアクセントを追求します。
- ④ 複合子音の練習題その 4 「 ſ i 」の拗音：更に美しい発音とアクセントチェック。
- ⑤ 複合子音の練習題その 5 「 d z, d ʒ 」：複合子音の発音、練習題の法則チェックと読み。
- ⑥ 総括テスト：今までやった事が理解でき、自由に使えるかの確認。

中間試験評価方法・評価基準

出席点 50%：平常点 30%：試験 20%
 日常的な訓練が出来ているか、基礎技術が定着したかをみます。

授業計画（8 回目から 15 回目）

- ⑦ 1Qの復習と確認：1Q末筆記テストの答え合わせ。
- ⑧ 複合子音練習題とサブテキストを学ぶ、その1「 dʒ 」の拗音：複合子音の練習を続けつつ、サブテキストの読みを行います。
- ⑨ その2「 dʒ 」の拗音：練習題の追及を行いつつ通常の分の読みの基礎を習得します。
- ⑩ その3「 ts 」の拗音：基礎力の繰り返し確認。
- ⑪ その4「 nj 」：文章に慣れ、内容を理解して文節を作ります。
- ⑫ その5「 ɕj 」：長文を自在に基礎チェックできるようにします。
- ⑬ その6「 pj 」：練習題と長文の両方を自在に読めるようにします。
- ⑭ 総括テスト：春学期に学んだことが理解できているかの確認。

期末試験評価方法・評価基準

出席点50%：平常点30%：Q末試験20%

日常的に長文の音読練習が出来ているかを確認し、法則に基づくアクセントと美しい日本語の発音が自分のものにできているかをみます。（各課題や進み具合は、状況により適宜変更することがあります）

特記事項

授業では、アクセント辞典を使用します。

必要な際は、遠隔授業として行うことがあります。

学科名	声優学科
科目名	言葉の基礎・応用編Ⅱ
担当講師名	滝沢ロコ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はぶろだくしょんバオバブ、東京芸術座に所属し、アニメ、外画、ナレーション、舞台公演等、声優俳優として、演出家としての実務経験を持ちます。

授業内容

前期の成果を踏まえて、より高度な文章の読みを習得します。プロにとって最も必要な文章や台詞等の読みの基礎を確実にし、卒業後に生かせるようにします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・すべての音の正しい発音の習得を目指します。
- ・正しい法則による長文音読の完成を目指します。
- ・アクセントの徹底習得と、美しく正しい日本語を使って、自在に文が読めるようにします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 前期の復習と確認、長文の音読：サブテキスト「防災気象情報」
- ② 複合子音練習と解説文を読む、その1「bj」：引き続き複合子音練習題を行います。
- ③ 複合子音練習と解説文を読む、その2「F」の拗音：正しく伝わる基礎的な読みを理解し実習します。
- ④ 複合子音練習と解説文を読む、その3「Fj」：日常使わない用語を多く含んだ文の読みを実習します。サブテキスト「兄貴のような心持、菊池寛氏の印象 芥川龍之介文」
- ⑤ 複合子音練習と解説文を読む、その4「mj」：難しい文章を軽く読める力を付けます。
- ⑥ リスニング・スピーキングテスト：法則が聞き取れるか、正しく話せるかをチェックします。
- ⑦ 総括テスト：実力の確認。

中間試験評価方法・評価基準

出席点50%：平常点30%：試験20%

長文を読む力がついているか、内容の理解によるブレスの取り方が見極められるか、総合的な基礎力は身についたかをチェックします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 3Qの復習と確認、複合子音練習：複合子音練習題を進め、合わせてサブテキストを練習します。
- ⑨ 複合子音練習と長文を読む、その1「rj」：引き続き複合子音練習題を行います。
- ⑩ 複合子音練習と長文を読む、その2「w」の拗音：長文を正しいアクセントと法則で音読できる様実習します。
- ⑪ 物語文での応用その1：自在に正しいアクセントや法則を使って表現できているかを見ます。サブテキスト「青い目のメリーちゃん」
- ⑫ 物語文での応用その2：多様な感情を込めた際にも、法則通り読めているかを見ます。
- ⑬ 物語文での応用その3：これまでの授業で学んだ事をまとめて文を読みます。
- ⑭ リスニング・スピーキングテスト：聞いたアクセントをすぐに直せるか、使って台詞を言えるかをチェックします。
- ⑮ 総括テスト：総合チェック、自作の文を読みます。

期末試験評価方法・評価基準

出席点50%：平常点30%：試験20%

言葉を使って仕事をするにふさわしい基礎力がついているか、今後伸びる可能性があるか、更に、日常の自主練が身についているかを合わせてチェックします。（各課題や進み具合は、状況により適宜変更することがあります）

特記事項

授業では、アクセント辞典を使用します。

必要な際は、遠隔授業として行うことがあります。

学科名	声優学科
科目名	朗読Ⅲ
担当講師名	埴野ひろ子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、TV、ラジオ、VPなどで数々のナレーションを担当。朗読ライブを定期的に行い、大学や一般向けにも朗読指導を行う実務経験を持ちます。

授業内容

主に舞台に立つ朗読を訓練します。古典物にも挑戦します。文字を声に変換する際、その背景を探り、人物像を創り上げ、自身の経験を反映しながら責任をもって表現する過程を学びながら、聴き手に届く声と技を鍛錬します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

1年次で学んだ基礎を更にブラッシュアップしながら、何が書かれているのか、を明確に表現する力を付けます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 朗読をするための準備と基本的な注意点をチェックします。
- ② 発声と滑舌をチェックします。（「ういらう売り」をテキストにして毎回稽古し、最終的に暗記します。）
- ③ 物語を読む①：情景の広がり表現します。テキストは司馬遼太郎作「烏江の月」。
- ④ 物語を読む②：緩急、強弱を明確につける稽古をします。テキストは「烏江の月」。
- ⑤ 物語を読む③：歴史上の人物の横顔を調べ、人物像を表現します。テキストは「烏江の月」。
- ⑥ 物語を読む④：物語全体の構成を考えて朗読します。テキストは「烏江の月」。
- ⑦ 成果の確認のため、「烏江の月」の抜粋を各自朗読して、中間試験とします。

中間試験評価方法・評価基準

作品の試験範囲を朗読し、これまで稽古してきたことが総合的に表現できているか評価します。

出席：20% 平常点：40% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 古典作品である「曾根崎心中」（近松門左衛門 作）の中から、名文『道行』の場面を使って、朗誦の稽古をします。
- ⑨ 「曾根崎心中」全体のあらすじと時代背景を掴み、作品の内容を理解します。
- ⑩ 『道行』部分で、詠嘆調の読みの稽古をします。
- ⑪ 舞台上演用に構成された『道行』を分ち読みします。
- ⑫ 韻を踏んだ言葉の響きを意識しながら、稽古します。
- ⑬ オーディション形式で、自分の選んだ箇所を朗読します。（期末試験も兼ねます。）
- ⑭ キャストを発表、役割分担した台本で、読み合わせをします。
- ⑮ 舞台上の動きと連携を考えながら稽古します。その表現を期末試験の評価とします。

期末試験評価方法・評価基準

作品に対する理解度、古典物を読む際の表現の工夫と共に、上演に耐えうる声の響きを評価します。

出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

アクセントや漢字の読み方は必ず予習時に調べて来てください。

学科名	声優学科
科目名	朗読Ⅳ
担当講師名	埴野ひろ子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、TV、ラジオ、VPなどで数々のナレーションを担当。朗読ライブを定期的に行い、大学や一般向けにも朗読指導を行う実務経験を持ちます。

授業内容

文学作品においては、長物を読み切る力を付ける一方、随筆や詩となど幅広いジャンルの朗読を稽古します。また、グループワークとして、1つの作品をどのように分担して読むか、舞台を想定しての発表を行うなど、より個々が自主的に動く授業を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

朗読は、最終的に全て自己完結させて表現しなければならない手法です。「自分はこう読む」という強い思いを表現できたか、それを確認するために、自他の朗読を聴く耳と創造力を養います。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 実際に舞台上で朗読する際の、身体の使い方を体験し、発声、滑舌、間の取り方などを再確認します。
- ② 民話を読む：「鶴の恩返し」をテキストに、民話の読み方を稽古します。
- ③ 台詞を読む①：セリフ術を磨くため戯曲を朗読台本用テキストにした「朗読・夕鶴」（木下順二 原作）を使用します。
- ④ 台詞を読む②：登場人物設定を考えながら、セリフの間、距離感、感情表現の変化を稽古します。テキストは「朗読・夕鶴」。
- ⑤ 台詞を読む③：役による台詞と地の文、全てを一人語りで行う稽古をします。テキストは「朗読・夕鶴」。
- ⑥ 成果の確認のため、「夕鶴」のあるシーンを抜粋して各自朗読し、中間試験とします。
- ⑦ グループワークで、舞台を想定した「夕鶴」の分ち読みを発表し、お互いに評価し合います。

中間試験評価方法・評価基準

各自の朗読発表から、感情表現が的確にできているか、自分なりの人物設定が描けているか、総合的に評価します。

出席：20% 平常点：60% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 文学作品を読む①：文豪夏目漱石の文章の特徴を味わいながら朗読します。テキストは「夢十夜～第三夜」。
- ⑨ 文学作品を読む②：一人称で書かれた文章の読み方を学びます。テキストは「夢十夜～第三夜」
- ⑩ 語る①：講談調や落語調の文体の朗読を稽古します。テキストは「貧の意地（太宰治作）」。
- ⑪ 語る②：台本を見ながらも、聴き手を捉える目線や表情を稽古します。テキストは「貧の意地」。
- ⑫ 詩を読む①：様々な詩を自分なりに解釈し、評論文と比較します。テキストは「詩の中の風景」（石垣りん 著）。
- ⑬ 詩を読む②：自分でどう感じ、どう伝えているか、厳密な表現を稽古します。テキストは「詩の中の風景」。
- ⑭ 成果の確認として、これまで学んだ作品の中からの抜粋を各自朗読して、期末試験とします。

期末試験評価方法・評価基準

自分の課題をどこまでクリアしたか、自分なりの解釈と表現を試みたか、総合的に判断して評価します。

出席：20% 平常点：50% 試験：30%

特記事項

学科名	声優学科
科目名	上演Ⅲ
担当講師名	伍堂哲也
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、劇団俳協に所属し、俳協や他の場で演出家としての実務経験を持ちます。舞台制作は、付随して指導します。

授業内容

舞台での演技のための体作り。鑑賞に耐える姿勢や動作、発声や発音ばかりでなく、読んで理解し表現する能力を自ら発見します。歌って踊れるエンターテインメントを目指し、歌、ダンスの授業と連携を持って、堂々とステージに立てることを目的とした作品作りをします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・積極的、意欲的に取り組みましたか。
- ・実践から学び、実際にやってみます。
- ・自分の個性を主張し、楽しんで自分を表現できましたか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 演技の相対性 1
役作りについて
- ② 身体コントロール力 1 演技ウォームアップ
演技ウォームアップ方法を実際にやりながら習得します。
- ③ 身体コントロール力 2 声について
声の方向性、距離、明暗、音域、etc
- ④ 身体コントロール力 3 意識について
意識の方向性、どこに向けて意識を伝えたいか、確認し実践から習得します。
- ⑤ 身体コントロール力 4 台詞
台詞を言うことで、様々なものを学びます。
- ⑥ 身体コントロール力 5 対話
相手との実践の中で対話を成立させます。
- ⑦ 3クォーター総括
各自クリアすべき目標をたてます。個別アドバイス。自主練習方法。

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、観察力、理解力、集中力、受講態度 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 台本を読む1 読み合わせ。
実際に台本を読んでもみます。
- ⑨ 台本を読む2 役にアプローチする実験
自分がその役になるとは・・・
- ⑩ 台本を読む3 役にアプローチする実験
前回に引き続き役へのチャレンジで様々な事を習得します。
- ⑪ 台本を読む4 役を掘り下げる読み方
役を追求し分析しながら、自分の表現とつなげていきます。
- ⑫ 台本を読む5 キャスティング準備
自分を知り、役と自分をすり合わせます。
- ⑬ 役をつかむ1 キャスティング準備
更に追及をします。
- ⑭ 役をつかむ2
キャスト決定
- ⑮ 4クォーター総括
チーム演技発表。個別アドバイス

期末試験評価方法・評価基準

積極性と出席率 60% 技術修得度 40%

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	上演Ⅳ・舞台製作
担当講師名	伍堂哲也
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、劇団俳協に所属し、俳協や他の場で演出家としての実務経験を持ちます。舞台制作は、付随して指導します。

授業内容

役は一人で作ることには出来ないし、劇は一人ひとりの「協力」の産物です。そのことを理解するために春学期に学んだことを踏まえて、一本の芝居を作り上げることにチャレンジします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

- ・積極的、意欲的に取り組み、チームで協力し合うことが出来たか。
- ・実践から学び、実際にやってみて、自分の役を創り上げることが出来たか。
- ・自分の個性を主張し、楽しんで自分を表現し、1本の公演を創造できましたか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 演技の相対性 1
役作りについて
- ② 身体コントロール力 1 演技ウォームアップ
演技ウォームアップ方法を実際にやりながら習得します。
- ③ 身体コントロール力 2 声について
声の方向性、距離、明暗、音域、etc
- ④ 身体コントロール力 3 意識について
意識の方向性、どこに向けて意識を伝えたいか、確認し実践から習得します。
- ⑤ 身体コントロール力 4 台詞
台詞を言うことで、様々なものを学びます。
- ⑥ 身体コントロール力 5 対話
相手との実践の中で対話を成立させます。
- ⑦ 3クォーター総括
各自クリアすべき目標をたてます。個別アドバイス。自主練習方法。

中間試験評価方法・評価基準

出席率 50%、観察力、理解力、集中力、受講態度 50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 台本を読む1 読み合わせ。
実際に台本を読んでもみます。
- ⑨ 台本を読む2 役にアプローチする実験
自分がその役になるとは・・・
- ⑩ 台本を読む3 役にアプローチする実験
前回に引き続き役へのチャレンジで様々な事を習得します。
- ⑪ 台本を読む4 役を掘り下げる読み方
役を追求し分析しながら、自分の表現とつなげていきます。
- ⑫ 台本を読む5 キャスティング準備
自分を知り、役と自分をすり合わせます。
- ⑬ 役をつかむ1 キャスティング準備
追及をします。
- ⑭ 役をつかむ2
キャスト決定
- ⑮ 4クォーター総括
チーム演技発表。個別アドバイス

期末試験評価方法・評価基準

積極性と出席率 60% 技術修得度 40%

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	上演Ⅲ
担当講師名	坂本岳大
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、舞台俳優としてストレートプレイやミュージカルを中心に舞台公演に出演。朗読公演なども行います。

授業内容

舞台での演技を前提として、シアターゲームやボディーワーク、開口発声訓練の基礎などをワークショップ形式の授業の中で「体験」します。同時に、実際のテキストを使って「シーンワーク」を行い、台本読解力・台詞術を高めて演技に結び付けられる事を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

個人的な癖を取り除き、オーソドックスな「日本語」として台詞を喋ることができるようになることを目標とします。
また、きちんと「交流のある会話」できるように、相手の台詞を「聞き」、相手に言葉を「伝える」ことが出来る事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 自己紹介、シアターゲームを通してコミュニケーションをはかります。
- ② 引き続き沢山のシアターゲームを通してコミュニケーションをはかりつつ、自身の五感を使っていくことを体験します。
- ③ ボディーワークの基礎を教え、自身の身体について勉強していきます。
- ④ 前回のワークの続き。自身の身体への意識やコントロールすることを学びます。
- ⑤ テキスト(台本の台詞)を使って、開口発声や母音について勉強します。
- ⑥ 引き続きテキストを使い、前回勉強したことを台詞に反映させていきます。
- ⑦ 1クォーターで学習したことを、テキストに反映させてシーンとしてまとめます。

中間試験評価方法・評価基準

出席率や遅刻の有無、授業への積極性など、まずは演技の実力よりも「意欲」に重点を置きます。その上で、コミュニケーション能力や台詞術の力量を評価します。

出席率 40%・平常点 30%・試験 30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テキストを使い、シーンワークの基礎を勉強します。
- ⑨シーンワークの基礎となる「言葉」と「交流」について掘り下げます。
- ⑩先の2回で学習したことを、実際のシーンで実践してみます。
- ⑪前回の続き。小返しの稽古で役と場面をより深めることを目指します。
- ⑫テキストから一度離れて、「即興」を行い言葉や動きを生み出すことを体験します。
- ⑬前回の続き。場面の中で、自分自身の「衝動」を感じて動ける事を目指します。
- ⑭今季勉強してきたことをシーンの中でまとめてみます。
- ⑮業公演候補作品の読み合わせ兼、キャスティングオーディションを行います。

期末試験評価方法・評価基準

出席率や授業への意欲、夏休みの課題レポートの内容、授業で学んだ演技に対しての力量を総合的に判断して評価します。

出席率 30%・平常点 30%・試験 40%

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	上演Ⅳ・舞台製作
担当講師名	坂本岳大
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、舞台俳優としてストレートプレイやミュージカルを中心に舞台公演に出演。朗読公演なども行います。

授業内容

年度末に行われる卒業公演上演の為の稽古をします。稽古を通して「作品」を作り上げることを体験していき、本番上演を行います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

卒業公演作品の稽古・上演を通して、これまで勉強してきた台詞術や舞台での立ち振る舞い、交流などの技術・意識を高めていきます。
本番上演を一つのゴールと設定して、そこに向けて完成度を高めることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 読み合わせ①-作品全体・自分の役を把握すること目的とします。
- ② 読み合わせ②-各場面の目的・シーンの意味などを考えながら、交流することを目指します。
- ③ 読み合わせ③-人物分析を深め、立ち稽古に向けてイメージを膨らませていきます。
- ④ 立ち稽古①-舞台空間を把握することを目的として、各場面を当たっていきます。
- ⑤ 立ち稽古②-前回に引き続き、舞台空間を把握することを目的として、各場面を当たっていきます。
- ⑥ 立ち稽古③-各場面をより具体的に掘り下げつつ、シーンのデッサンを行います。
- ⑦ 立ち稽古④-前回に引き続き、各場面をより具体的に掘り下げつつ、シーンのデッサンを行います。

中間試験評価方法・評価基準

稽古の参加(出席)状況。態度や意識などの平常点に加えて、この時点での演技の成果で判断します。その他、作品への理解度や、演技以外の係仕事などへの貢献度も評価します。
出席率 30%・平常点 30%・試験 40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 立ち稽古⑤-各場面の掘り下げを行いつつ、シーンをより具体的に形にしていきます。
- ⑨ 立ち稽古⑥-人物間の交流を深め、シーンの繋がりを意識していける稽古をします。
- ⑩ 立ち稽古⑦-これまでの立ち稽古の総まとめとチェックをします。
- ⑪ 通し稽古①-実際に通してみることで作品の流れを把握すること。本番上演に向けて問題点を洗い出します。
- ⑫ 通し稽古②-通し稽古の反復で慣れていくこと、各課題の修正を行います。
- ⑬ 通し稽古③-各課題の修正を行いつつ、作品をより深めていくことを目指します。
- ⑭ 通し稽古④-前回に引き続き、修正を行いつつ更なるレベルアップをはかります。
- ⑮ 通し稽古⑤-最終的な総仕上げを行います。

期末試験評価方法・評価基準

自身の役の演技技術の向上度合いを主としつつ、作品づくりの中で「演技以外」の作業等の成果や意識も評価ポイントとし、年間での成長を総合的に見て評価します。
出席率 30%・平常点 30%・試験 40%

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	ラジオパーソナリティー I
担当講師名	高森浩二
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はイベントMC・式典等の司会。ラジオパーソナリティー。ナレーションなどの経験を持ちます。

授業内容

ラジオパーソナリティーは文字通りラジオのディスクジョッキー (DJ) です。基本的には音声メディアなので言葉だけで何をどう表現するのか。自分のキャラクターを全面に出して実践してもらいます。

到達目標 (この授業で何ができるようになるのか)

大枠はありますが、喋る内容は自分で考え発信しないとけません。事前の準備。それをどういった形で喋るのか。限られた時間の中で自分の伝えたいことを表現することが目標です。

授業計画 (1回目から7回目)

- ①新番組のパーソナリティー
- ②フォーマットに基づいた番組進行
- ③テーマに基づいたフリートーク
- ④世の中のトレンドを調べて話す
- ⑤映画や本などのカルチャーを語る
- ⑥音楽の紹介
- ⑦5分の番組を進行

中間試験評価方法・評価基準

出席50% 平常点50%

授業に参加している事。事前の準備と応用力。楽しく喋れて人の心に届いているか等を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧テーマをリレー方式で与えます。即興のフリートーク。
- ⑨リスナーさんからのメール紹介①
- ⑩リスナーさんからのメール紹介②
- ⑪番組のテーマに基づき選曲
- ⑫音響・ディレクターに挑戦
- ⑬テーマに基づいた番組制作①
- ⑭テーマに基づいた番組制作②
- ⑮5分の番組②

期末試験評価方法・評価基準

出席50% 平常点40% 期末試験10% 遅刻欠席がない事。事前準備、進行が来ているか。楽しく話が来れて聴いている人にも届いているか。などを評価のポイントとします。

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	ラジオパーソナリティーⅡ
担当講師名	高森浩二
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はイベントMC・式典等の司会。ラジオパーソナリティー。ナレーションなどの経験を持ちます。

授業内容

言葉で伝えることが基本となりますが、最近では動画なども活用した番組も増えています。エンタテイナーとしてパーソナリティーを生かした番組を作り発表していきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

実践的な番組作り。聴衆者や視聴者に自分の言葉とキャラクターで楽しい時間を届けることが大切です。また制作側の役割も担いトータルで番組づくりの楽しさを味わっていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①擬音ジャスチャークイズ
- ②カウントダウン番組①
- ③カウントダウン番組②
- ④ゲストトーク①
- ⑤ゲストトーク②
- ⑥10分番組の進行①
- ⑦10分番組の進行②

中間試験評価方法・評価基準

出席50% 平常点50%
授業に参加している事。事前の準備と応用力。限られた時間の中での番組の進行が評価のポイントになります。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧NEWS原稿読み
- ⑨チームに分かれて番組制作①
- ⑩チームに分かれて番組制作②
- ⑪ディベートトーク。番組形式でエンターテイメント感溢れるトーク展開をする
- ⑫リスナーからの電話相談に答える
- ⑬ワンマンDJ①
- ⑭ワンマンDJ②
- ⑮ラジオ番組最終回

期末試験評価方法・評価基準

出席50% 平常点40% 期末試験10% 遅刻欠席がない事。事前準備、進行が出来ているか。機材の操作も含めた総合力が身につけていけば尚評価が上がります。パーソナリティーとして楽しく話が出来て聴いている人にも届いているか。などを評価のポイントとします。

特記事項

必要な場合はオンラインレッスンでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	スタジオアクティング I
担当講師名	氷上恭子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は株式会社マウスプロモーションに所属し、アニメ、外画、ゲーム、ナレーションなど声優としての実務経験を持ちます。

授業内容

アニメのアフレコ、海外作品の日本語吹き替え（アテレコ）を体験します。スタジオマナーやマイクの使い方なども含め、実習を通してマイク前の演技を体験します。発声・発音・アーティキュレーション（滑舌・言葉の調子）は随時、見直し、チェックします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

台本から状況や感情を想像し、体の動きも意識し感じられるマイク演技を目標とします。その上で映像に合わせるという制限の中でも生き生きとした表現ができることを目指します。さらに音声を収録し確認することで、実際に表現されたものが自分のイメージしたこととどのくらい合っているのか客観的に理解し、演技のアプローチが素早くできるようになることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①ガイダンス。授業の進め方や目標などを確認し、スタジオマナーやマイクの使い方などの説明をします。課題1の台本を配布して記号や用語などを確認します。
- ②課題1（外画）全体で映像を確認し、配役をしてアフレコを行います。
- ③課題1（外画）収録したものをチェックしF.B.します。
- ④課題1（外画）F.B.したことを踏まえアフレコをします。
- ⑤課題2（アニメ）本読みと映像の確認後、配役をしてアフレコを行います。
- ⑥課題2（アニメ）収録したものをチェックしF.B.します。
- ⑦課題2（アニメ）ギャなど本役以外にも確認をしてアフレコをします。

中間試験評価方法・評価基準

試験は行わず、①出席率 30% ②平常点（予習や復習といった授業への取り組み方、普段

の受講態度や成長度合い) 30% ③技術 (発声・発音、演技力など) 30% ④その他 (機材の準備や片付け、周りへの気遣いなどチームワーク) 10%で評価します。

授業計画 (8回目から 15回目)

- ⑧課題 3 (外画) 等身大でシリアスな人物を演じます。映像の確認後、配役をしてアフレコを行います。
- ⑨課題 3 (外画) 収録したものをチェックして F.B. します。
- ⑩課題 3 (外画) F.B. を踏まえアフレコを行います。
- ⑪課題 3 (外画) ガヤなど本役以外も確認し演技します。
- ⑫課題 4 (アニメ) シリアスな作品だが外画との表現の違いを確認します。本読み、映像確認のあと、配役してアフレコを行います。
- ⑬課題 4 (アニメ) 収録したものをチェックし、F.B. します。
- ⑭課題 4 (アニメ) F.B. を踏まえアフレコを行います。
- ⑮春学期のまとめ、総括をします。秋学期に向けて各自の課題・目標を見直します。

期末試験評価方法・評価基準

試験は行わず、①出席率 30% ②平常点 (予習や復習といった授業への取り組み方、普段の受講態度や成長度合い) 30% ③技術 (発声・発音、演技力など) 30% ④その他 (機材の準備や片付け、周りへの気遣いなどチームワーク) 10%で評価します。

特記事項

- ・実際の授業に合わせ進行やテキストは変更することもあります。
- ・コロナの影響でスタジオ内、マイク前に4名しか入れません。他の学生は外で待機することになります。授業が3時間10分と長いため、その間の過ごし方として、発音練習用のテキストや短編の小説などコピーで自習用の副教材として配布します。
- ・状況により必要があればオンラインレッスンも対応します。

学科名	声優学科
科目名	スタジオアクティングⅡ
担当講師名	氷上恭子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は株式会社マウスプロモーションに所属し、アニメ、外画、ゲーム、ナレーションなど声優としての実務経験を持ちます。

授業内容

アニメのアフレコ、海外作品の日本語吹き替え（アテレコ）を体験します。スタジオマナーやマイクの使い方なども含め、実習を通してマイク前の演技を体験します。発声・発音・アーティキュレーション（滑舌・言葉の調子）は随時、見直し、チェックします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

春期で体験し学んだことをベースにして、卒業後の進路先（養成所や研究機関）に対応できる力を養います。多様なジャンルの素材（アニメ・海外ドラマなど）を取り入れ、細かな感情表現や様々なキャラクターを演じられることを目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①課題5（外画）全体で映像を確認し、配役をしてアフレコを行います。
- ②課題5（外画）収録したものをチェックしF.B.します。
- ③課題5（外画）F.B.したことを踏まえアフレコをします。
- ④課題6-a（ショートアニメ）本読みと映像の確認後、配役をしてアフレコを行います。
- ⑤課題6-a（ショートアニメ）収録したものをチェックしF.B.します。
- ⑥課題6-b（ショートアニメ）本読みと映像の確認後、配役をしてアフレコを行います。
- ⑦課題6-b（ショートアニメ）収録したものをチェックしF.B.します。

中間試験評価方法・評価基準

試験は行わず、①出席率 30% ②平常点（予習や復習といった授業への取り組み方、普段の受講態度や成長度合い）30% ③技術（発声・発音、演技力など）30% ④その他（機材の準備や片付け、周りへの気遣いなどチームワーク）10%で評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題7（外画）映像の確認後、配役をしてアフレコを行います。アクションシーンなども取り入れます。
- ⑨課題7（外画）収録したものをチェックしてF.B.します。
- ⑩課題7（アニメ）本読み、映像確認後、配役してアフレコを行います。
- ⑪課題8（アニメ）収録したものをチェックし、F.B.します。
- ⑫課題9（外画）アジアの作品の吹き替えをします。本読み、映像の確認後、アフレコします。
- ⑬課題9（外画）収録したものをチェックしF.B.します。
- ⑭今までの課題から気になるもの、やり残したことを確認、演習します。
- ⑮秋学期のまとめ、総括をします。

期末試験評価方法・評価基準

試験は行わず、①出席率 30% ②平常点（予習や復習といった授業への取り組み方、普段の受講態度や成長度合い）30% ③技術（発声・発音、演技力など）30% ④その他（機材の準備や片付け、周りへの気遣いなどチームワーク）10%で評価します。

特記事項

- ・実際の授業に合わせ進行やテキストは変更することもあります。
- ・コロナの影響でスタジオ内、マイク前に4名しか入れません。他の学生は外で待機することになります。授業が3時間10分と長いため、その間の過ごし方として、発音練習用のテキストや短編の小説などコピーで自習用の副教材として配布します。
- ・状況により必要があればオンラインレッスンにも対応します。

学科名	声優学科
科目名	ナレーション I
担当講師名	茂木たかまさ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はマウスプロモーションに所属し、外画・アニメ・ナレーション等での声優としての実務経験を持ちます。

授業内容

ナレーションという仕事はどのようなものなのかを学んでいきます。課題を通じてナレーションという仕事への理解を深め、様々な表現方法を学びながら自分自身の演技の幅をさらに広げていきます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

文章をきちんと読む力を身につけると共に、『ナレーション』という固定概念に囚われない、大きくて自由な表現が出来るようになる事を目指します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ナレーションの授業内容を確認しつつ、自己紹介も兼ねた実力テストをさせていただきます。
- ② 原稿のみを使用し、音読をしてもらいます。初見の文章に慣れていきましょう。
- ③ 音楽を加えてみます。自分の声が音と一緒になった時どのようなようになるのか体感しましょう。
- ④ 自分の声を実際に録音してみます。出来上がったものを客観的に聞いてみましょう。
- ⑤ 別の題材を使用します。作品によって異なる発声・表現を学びましょう。
- ⑥ 音楽を加えてみます。自分の声と音楽が合わさった時どういったものになるのか、改めて確認しましょう。
- ⑦ 中間試験：課題の原稿を読んでもらいます。学んだこと・身につけたものを存分に発揮して、思い切り試験に臨みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。試験では「声量」「滑舌」「作品の理解度」「表現の工夫」を主にみていきます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 新しい課題に挑戦します。作品が持つ雰囲気を感じ取りましょう。
- ⑨ 音に合わせてます。自分の目指した表現がきちんとできているかを確認し、体に慣れさせていきましょう。
- ⑩ 通販番組のナレーションに挑戦してみます。勢いは残しつつも、きちんと商品説明することを忘れないようにしましょう。
- ⑪ 実際に録音してみます。後ろで流れる音に負けないエネルギッシュな表現ができているか確認しましょう。
- ⑫ キャラクターもののナレーションをしてもらいます。個性を維持しながらの発声にチャレンジしていきましょう。
- ⑬ ドキュメンタリーのナレーションをしてもらいます。番組の雰囲気や求められる表現を学びましょう。
- ⑭ 実際に録音します。自分の声が流れる番組を視聴して、客観的に自分自身の現状を把握しましょう。
- ⑮ 期末試験：課題の原稿を読んでもらいます。これまで学んだことを自分の中でしっかりと消化して、試験に臨みましょう。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。試験では「声量」「滑舌」「作品の理解度」「表現の工夫」を主にみていきます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

授業内容は状況によって変更になる場合があります。
必要な時はリモートでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	ナレーションⅡ
担当講師名	茂木たかまさ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はマウスプロモーションに所属し、外画・アニメ・ナレーション等での声優としての実務経験を持ちます。

授業内容

これまでの授業で学んだことを踏まえつつ、より実践的な内容のナレーションに挑戦していきます。難しい文章や言葉が多くなってきますが、しっかりとそれらを乗り越えていきましょう。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

作品に込められた想いをしっかりと意識し、それをきちんと「伝える」表現に繋げていけるようになることを目指します。また、多様な作品に触れることで自分の苦手な分野を把握し、卒業後も「どう努力・克服していくか」という課題も見つけていきます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① CMナレーションに挑戦します。きちんと商品説明ができているかを意識しましょう。
- ② 実際に録音してみます。自分の声で流れたCMがきちんと自分に伝わってくるか確認しましょう。
- ③ 別のジャンルのCMナレーションに挑戦します。短い文章ですが、気を抜かないようにしましょう。
- ④ 実際に録音してみます。映像を見た人が、ちゃんと作品に興味を持ってくれるのか確認しましょう。
- ⑤ ボイスオーバーのナレーションをします。原音の上に日本語を乗せるということにも慣れていきましょう。
- ⑥ 実際に録音してみます。違う言葉のリズムに引っ張られずに、きちんと内容を表現することを意識できているか確認しましょう。
- ⑦ 中間試験：課題の原稿を読んでもらいます。今までやってきたことを思い出し、自信をもって試験に臨みましょう。

中間試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。試験では「声量」「滑舌」「作品の理解度」「表現の工夫」を主にみていきます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ イベント用PVのナレーションに挑戦します。ユーモアを忘れず、しっかりとメリハリの利いた作品づくりを心がけましょう。
- ⑨ 引き続きイベント用PVのナレーションに取り組みます。言葉の端々までしっかり発声することを忘れないようにしましょう。
- ⑩ 番組冒頭のナレーションを体験します。聞いている人を引き込む工夫を模索しましょう。
- ⑪ 引き続き番組冒頭のナレーションに取り組みます。文章の枠に囚われず、さらに思い切った表現に挑戦しましょう。
- ⑫ 引き続き番組冒頭のナレーションに取り組みます。今までと違うアプローチの仕方がないか、改めて考えてみましょう。
- ⑬ 医療もののナレーションを体験します。専門的な言葉が多いですが、苦手意識を持たないように注意しましょう。
- ⑭ 引き続き医療もののナレーションに取り組みます。難解な文章をいかに表現するか、日ごろの努力の見せ所です。
- ⑮ 期末試験：課題の原稿を読んでもらいます。今まで得てきた全ての技術と知識を出し切って、1年間の集大成を見せて下さい。

期末試験評価方法・評価基準

実技試験を行います。試験では「声量」「滑舌」「作品の理解度」「表現の工夫」を主にみていきます。

出席：30% 平常点：30% 試験：40%

特記事項

授業内容は状況によって変更になる場合があります。
必要な時はリモートでの対応を予定しております。

学科名	声優学科
科目名	ヴォーカルIII
担当講師名	高島みほ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアニメ主題歌歌唱、コーラス、ライブ活動、ミュージカル出演、アルバムリリース等の経験を持ちます。

授業内容

声優、俳優、歌手とは何かを学びながら、音楽の基礎を体を使って覚えます。しっかりした発声を学びつつ、ステージでの表現につながるように、一人ひとりの声を確かめます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

地道なトレーニングにより、楽な声の出し方を習得します。高い意識を持ち、正しい発声を出れる様になりましょう。

授業計画（1回目から7回目）

- ①自己紹介と目標を確認する作業をします。
- ②ステージで好きな曲を1コーラス歌ってみます。
- ③無理をしない地声の出し方を試してみます。
- ④裏声を使い地声との違いを確認します。
- ⑤ストレッチを行い、身体を柔軟にし、か声を出してみます。
- ⑥発声の後、一人ずつ発表し、アドバイスを聞きます。
- ⑦6回目でのアドバイスを確認後、発表します。

中間試験評価方法・評価基準

授業態度や向上心を評価します。苦手な所に目を向け、改善しようとしているかを見ます。
試験50% 授業態度50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧7回目でやった曲でもう一度発表します。
- ⑨声で感情を表現します。
- ⑩音にのせて声の表情を作る練習をします。
- ⑪息の量を調節し、繊細さを出します。
- ⑫ライブパフォーマンスに役立つ表情を練習します。
- ⑬ステージで発表し、見ている人の意見を聞きます。
- ⑭6回目の発表を学習し、レベルアップを図ります。
- ⑮ミニライブで点数をつけます。

期末試験評価方法・評価基準

曲の内容に沿って、声の表情が出来ているか、そして強弱、顔の表情がついているかを見ます。試験80% 授業態度20%

特記事項

学科名	声優学科
科目名	ヴォーカルⅣ
担当講師名	高島みほ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はアニメ主題歌歌唱、コーラス、ライブ活動、ミュージカル出演、アルバムリリース等の経験を持ちます。

授業内容

各学期やった発声、表現を思い出し、いよいよ歌いながら動いてみます。曲に合わせて、自然に体が動かせるようにトレーニングし、歌と動きの一体化を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

声優、俳優、歌手として意識を高く持ち、個性を見出す事を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ①手の動きとクラップでリズムを体感します。
- ②バラード曲での手の動きを練習します。
- ③ランダムで曲をかけ、それに合わせてステップを踏みます。
- ④アップテンポの曲を歌いながら、ステップを踏みます。
- ⑤マイクとの距離感をつかみます。
- ⑥ハンドマイクと、スタンドマイクの違いを感じます。
- ⑦はんどまいくで課題曲を発表します。

中間試験評価方法・評価基準

3クォーターでやった手足を使う歌唱表現が実行できていたかをみます。それに伴い、歌がおろそかになっていないかも大きく評価します。試験70% 授業態度30%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧課題曲を決め、パート分けをし練習します。
- ⑨グループを作り、1グループずつ確認します。

- ⑩ハモリをより美しく豊かにしていく作業をします。
- ⑪ライブの選曲をし、イメージし、歌詞を書き出します。
- ⑫声の表現と手足のパフォーマンスを全て盛り込んだ作品を作ります。
- ⑬衣装の案とメイクのレクチャーを行います。
- ⑭本番さながらに通し稽古を行います。
- ⑮ライブパフォーマンス試験をします。

期末試験評価方法・評価基準

表情、歌、リズム全てを見て、丁寧さを評価します。自分らしいパフォーマンスが出来たかが重要です。試験100%

特記事項

学科名	声優学科
科目名	パントマイムⅢ
担当講師名	栗原一
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はファミリーミュージカルや市民ミュージカルの演劇におけるパントマイム指導や、小学生から大人まで広範囲に渡るパントマイムワークショップ講師の経歴を持ちます。

授業内容

基本から上級までのパントマイムテクニックを反復練習によって自由自在に操れる身体を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

身体表現を駆使し、自作品を創作できるようパントマイムの技術及び舞台におけるパントマイム表現を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「身体能力の確認」現時点での体力を測定します。
- ② 固定点の確認、意識して止めます。
- ③ 身体表現「ひく、ひかれる」 体の動きを確認します。
- ④ 身体表現「押す、押される」 体の感覚を身につけます。
- ⑤ 固定点の強化
- ⑥ 「成果の確認」これまで学習したテクニックを披露します。
- ⑦ 「特別授業」ジャグリングを実演してみます。

中間試験評価方法・評価基準

出席率と身体表現の的確性を評価します。
出席率：50%、テクニック：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「身体能力の確認」現時点での体力を測定します。
- ⑨ 身体表現「乗り物」を表現してみます。

- ⑩ 身体表現「動物」を表現してみます。
- ⑪ 身体表現「仕事」の動作を表現してみます。
- ⑫ 身体表現「日常」を的確に表現してみます。
- ⑬ 身体表現「感情」様々な感覚を表現してみます。
- ⑭ 「成果の確認」これまで学習したテクニックを披露します。
- ⑮ 「特別授業」ジャグリングを実演してみます。

期末試験評価方法・評価基準

出席率と身体表現の的確性を評価します。

出席率：50%、テクニック：50%

特記事項

必要に応じて、遠隔授業での対応もいたします。

学科名	声優学科
科目名	パントマイムⅣ
担当講師名	栗原一
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はファミリーミュージカルや市民ミュージカルの演劇におけるパントマイム指導や、小学生から大人まで広範囲に渡るパントマイムワークショップ講師の経歴を持ちます。

授業内容

基本から上級までのパントマイムテクニックを反復練習によって自由自在に操れる身体を習得します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

身体表現を駆使し、自作品を創作できるようパントマイムの技術及び舞台におけるパントマイム表現を習得します。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 「身体能力の確認」現時点での体力を測定します。
- ② 既成作品「朝」その1 日常の自分もよく振り返って観察します。
- ③ 既成作品「朝」その2 前回は踏まえて、作品を仕上げます。
- ④ 既成作品「つり」その1 リアルに表現できるようにします。
- ⑤ 既成作品「つり」その2 前回は踏まえて、作品を完成させます。
- ⑥ 既成作品を披露します。
- ⑦ 「特別授業」ジャグリングを実演してみます。

中間試験評価方法・評価基準

出席率と作品における表現力を評価します。

出席率：50%、テクニック：50%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 「身体能力の確認」現時点での体力を測定します。
- ⑨ テーマに沿った作品を創作します。全身を自由に使って表現します。

- ⑩ テーマに沿った作品を創作します。全ての感覚を先生に感じて行います。
- ⑪ テーマに沿った作品を創作します。自由に楽しんで行います。
- ⑫ 自らテーマを決め作品を創作します。総集編
- ⑬ 自らテーマを決め作品を創作します。総集編
- ⑭ 「成果の確認」これまで学習したテクニックを披露します。
- ⑮ 「特別授業」ジャグリングを実演してみます。

期末試験評価方法・評価基準

出席率と創作作品のオリジナルティ及び表現力を評価します。

出席率：50%、テクニック：50%

特記事項

必要に応じて、遠隔授業での対応もいたします。

学科名	声優学科
科目名	ジャズダンスⅢ
担当講師名	毛利あゆみ
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス教室を開催、キッズからプロまで幅広くダンス指導をし、また振り付けでも多くの実務経験を持ちます。

授業内容

一年次の通年で習得したテクニックにバリエーションを与え、更に作品のコンセプトに合う表現力・個性・テクニックをバランスよく身につけます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ウォームアップ・アイソレーションなどを通じて、どこまで自分の身体を思い通りに動かす事が出来るか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① ウォームアップ・ストレッチ・筋力アップ
身体の様々な部分を動かし、その方法を学びます。
- ② スタンス&バランス
ダンスをするために必要な基本姿勢、重心の置き方を学びます
- ③ アイソレーション&リズム
身体の各部分でリズムを取り、その方法を学びます。
- ④ アイソレーション&ステップ
身体の各部分でリズムを取り、感じ、表現します。
- ⑤ ステップ&リズム
ステップとリズムの組み合わせをトレーニング。
- ⑥ 総合
全行程のまとめスキルアップ。
- ⑦ 期末試験
振付作品を踊ります。

中間試験評価方法・評価基準

様々なステップを応用し、柔軟性とテクニックが身についているか。自己表現出来ているかをチェックします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ スタンス&バランス
軸の取り方、重心移動を更に強化します。
- ⑨ アイソレーション&リズム
身体の各部分でリズムを取り、更にリズムを細かくとります。
- ⑩ アイソレーション&リズム
アイソレーションとリズムの応用。
- ⑪ ステップ&ターン
重心移動を更に強化します。
- ⑫ ステップ&ターン
ステップとターンの応用
- ⑬ 表現とレベルアップ
表現の応用とスキル
- ⑭ 総合
最終確認。
- ⑮ 期末試験
振付作品を踊ります。

期末試験評価方法・評価基準

テクニックにおいて、スタンス・バランスを正確に保ち、身体がしっかり使えているか。音を感じて身体をコントロールし、振付にあった表現が出来ているかをチェックします。

特記事項

必要に応じて、遠隔授業での対応もいたします。

学科名	声優学科
科目名	ジャズダンスⅣ
担当講師名	毛利あゆみ
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は、ダンス教室を開催、キッズからプロまで幅広くダンス指導をし、また振り付けでも多くの実務経験を持ちます。

授業内容

イベント(ダンス発表)に向けて、作品創りをしていきます。作品を踊るために必要な表現力・個性・テクニックを更に強化します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

基礎・テクニック・表現力が自分のものとして最大限に活かされ「作品を創り上げる」という意識を持って自己アピールを出来るか。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 作品のテーマ・コンセプト・曲通じてイメージを明確にします。
- ② 振付をしていきます。振付を正確に覚えます。
- ③ 振付をしていきます。何度も繰り返し、確実なものにします。
- ④ 振付をしていきます。テクニック・表現力を強化します
- ⑤ 振付を完全に覚えた状態から、よりテクニックを高めるように踊り込みます。
- ⑥ トータルの完成度を上げます。
- ⑦ 期末試験
振付作品を踊ります。

中間試験評価方法・評価基準

テクニック・表現力がバランスよく出来ていて、自己アピールと共に「見せる」意識が十分に発揮しているかをチェックします。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 基礎の強化

身体を自由に動かし、コントロールする能力を更に強化します。

- ⑨ テクニックと表現の強化
様々なステップと重心移動の強化。
- ⑩ テクニックと表現の強化
身体のコントロールと想像力を形にするトレーニング。
- ⑪ テクニックと表現の強化
身体のコントロールと想像力を形にするトレーニング。
- ⑫ 表現の応用とレベルアップ
- ⑬ 表現の応用とレベルアップ
- ⑭ 最終確認
- ⑮ 期末試験
振付作品を踊ります。

期末試験評価方法・評価基準

2年間で習得した基礎・テクニック・表現力が身についているか。作品を通して個々のレベルアップと自己表現が出来ているか。それらをポイントに総合力を評価します。

特記事項

必要に応じて、遠隔授業での対応もいたします。

学科名	声優学科
科目名	日本舞踊 I
担当講師名	藤間 青娥
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は歌舞伎俳優、宗家藤間日本舞踊家としての実務経験があります

授業内容

日本舞踊を学ぶ事により文化を想像する豊かな感性と創造力の育成。日本人の自然に対する繊細な感覚や礼儀、作法、しぐさの中に込められた独特の良さや美しさに理解を深め、発信する 豊かな感性と創造力を養う事を目的とします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

郷土や我が国伝統の文化が尊重でき、先人の努力を知り郷土や国を愛する心を持つ人間になり、それを未来に受け継ぐ心を養い、又、グローバル化の社会の中、自分とは異なる文化、歴史に敬意を払い我が国の郷土の伝統や文化を受け止め、そのよさを継承、発展できる人間を目標とします。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 日本の伝統芸能の成り立ち、和服（浴衣）を着ての動きになりますので、和服の扱い方、メンテナンス方法を学びます
- ② 和服の着付けを学びます。男性と女性とで着付けに違いがあります。各自の着付けを含め、それぞれの帯結びを学びます。
- ③ 各自の体型に合った着方を工夫し、体得します。又、長時間動いても着崩れない着付けを学びます。
- ④ 和服での所作を学びます。指先、姿勢、歩み、立ち座り、舞台での身の置き方が主な内容です。
- ⑤ 古典芸能が鎮魂儀礼の名残でもある扇子の扱いを学びます。
- ⑥ 和服を着ての動きと扇子の扱いが上手く調和するように練習します。
- ⑦ 中間試験：各自の着付けと動き、扇子の扱いが身についているか確認します。

中間試験評価方法・評価基準

出席率 30% 授業態度 30% 学習率 20% 実技 20% 教わった内容をきちんと踏襲でき

ているか 着付は伝統芸能に限らず日本文化そのものです。自信を持てる和装の心得を学べているか試験します

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 基本練習曲：音源を使って日本舞踊の美意識と動きを学んでいきます。
- ⑨ 基本練習曲：手、足、目線の動きを学びます。
- ⑩ 基本練習曲：扇子の表現方法を学びます。
- ⑪ 基本練習曲：日本のリズムの合わせて動く事を学びます。
- ⑫ 基本練習曲：振りを覚えてテンポ良く踊っていきます。
- ⑬ 基本練習曲：振りにメリハリを付けていきます。
- ⑭ 基本練習曲：振りに緩急強弱を付けていきます。
- ⑮ 期末試験：基本の動きと応用の動きが身についているか確認します。

期末試験評価方法・評価基準

出席率 30% 授業態度 30% 学習率 20% 実技 20% 目線、指先、つま先にも踊っている間、きちんと意識がいつているか、又、しっかり体幹が使えているかを試験します。

特記事項

おそらく古典芸能に触れるのは初めてかと思います。初めての体験から何かつかみ取るには数倍、努力が必要です。有意義な一年になるよう、自分自身に常に問いかけて下さい。

学科名	声優学科
科目名	日本舞踊 II
担当講師名	藤間 青娥
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師は歌舞伎俳優、宗家藤間日本舞踊家としての実務経験を持ちます。

授業内容

日本舞踊の所作を通して体幹の強化と発達をはかり、又、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うと共に、多様な文化を尊重できる態度や資質をはぐくみ、人間として質を高めます。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

ぶれなく動ける身体が育成され、授業内容を通して自国の文化を知る事により、集団や社会とのかかわりの大切さを理解し他国の伝統や文化を尊重すると共に、自信をもって外国の人と交流を図り、日本の伝統、文化を世界に発信しようとする態度を培う事ができます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 日本舞踊は先人の生活様式、風習、思考を表現した踊りです。まずは男性に焦点を当てて、その動きを学びます。
- ② 男性の踊りを学んでいきます。大きくおおらかに踊ります。
- ③ 男性ならではのダイナミックさを取り入れてメリハリのある踊りをします。
- ④ 次は女性の踊りに焦点を当てて、その動きを学びます。
- ⑤ 女性の踊りを学んでいきます。男性とは違った繊細さが要求されます。
- ⑥ 女性のしなやかさと柔らかさを表現していきます。
- ⑦ 中間試験：男性の踊り、女性の踊りを踊り分けます

中間試験評価方法・評価基準

出席率 30% 授業態度 30% 学習率 20% 実技 20% 立役（男性）と女形（女性）の表現方法の違いが理解できているかを試験します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ 日本舞踊を通じて更に体幹を鍛えていきます。
- ⑨ 所作の心理描写を学んでいきます。
- ⑩ 踊りを繊細に表現していく事を学びます。
- ⑪ 歌詞の意味が振りにも生かされている事を学びます。
- ⑫ 動きが単調にならないように、緩急強弱、起承転結を考え、振りに活かしていきます。
- ⑬ 扇子を使った表現の幅を広げる事を学びます。
- ⑭ 所作と心理描写のバランスを学びます。
- ⑮ 期末試験：1人、もしくは2人で8回目から学んで来た古典曲を踊り1年間の成果を確認します。

期末試験評価方法・評価基準

出席率 30% 授業態度 30% 学習率 20% 実技 20% 各自が目標、目的、モチベーションをもって一年間、努力し、学んで来た事が身についているか確認、評価します。

特記事項

古典芸能に触れるいい機会と考えましょう。明治維新以前、鎖国していた日本という島国ならではの文化に向き合い、先人の思いに心を馳せ、過去、現在、未来と自分自身に何が出来たか、何をしているか、何が出来るか改めて問いかけましょう。

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	ツァイ・ペイルン
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①挨拶、自己紹介
- ②楽器紹介Ⅰ
- ③楽器紹介Ⅱ
- ④どんな音楽が好きですか？
- ⑤作曲家&作詞家紹介
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧音楽用語
- ⑨海外旅行Ⅰ
- ⑩海外旅行Ⅱ
- ⑪発表会 スピーチⅠ
- ⑫発表会 スピーチⅡ
- ⑬音楽祭紹介Ⅰ
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	ツアイ・ペイルン
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

尚、講師は音楽留学のカウンセリング、大学受験英語対策等の実務経験がある経験豊富なプロフェッショナルです。

授業内容

英語による日常的な言語活動（聴く・話す・読む・書く）が行えるよう、自然かつ流暢に英会話ができるようにする。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

自信を持って英語で会話できるようになるスキルを身につける。そのために必要な語彙と文法の習得及び、様々な内容のテキスト（グループディスカッション）の使用により、英語コミュニケーション能力をも養成する。

授業計画（1回目から7回目）

- ①日常英会話（学校）
- ②将来の計画
- ③音楽の履歴を書く
- ④音楽のプロフィールを書く
- ⑤リハーサル演奏技法
- ⑥期中復習
- ⑦期中試験

中間試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧面接 (大学)
- ⑨面接 (仕事)
- ⑩演奏会感想
- ⑪コンサート紹介 I
- ⑫コンサート紹介 II
- ⑬マスタークラス
- ⑭期末復習
- ⑮期末試験

期末試験評価方法・評価基準

出席：25% 平常点：25% 課題：10% 試験：40%

特記事項

教材・参考書：担当教員より指示される。辞書は必ず持参すること。

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音楽史と西洋言語の関係性概論：教会音楽の樹立からポップミュージックの発展に至るまでの音楽の歴史と、西洋言語の密接な関係性
- ③ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性
- ④ 発音(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ⑤ 発音(2)：子音と母音の個別発音演習
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(1)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑨ コミュニケーション演習(2)：同上。回数を重ねることで徐々に英語のみでのゲームの成立を目指します
- ⑩ 英文法(1)：冠詞および過去形・過去分詞の違い
- ⑪ 英文法(2)：前置詞および句動詞
- ⑫ 総復習：夏期休暇明けのため、第1クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等进行评估します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	岩橋 宣輔
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

講師はヨーロッパにて15年間の在住経験を持ち、株式会社テレビ朝日での映像翻訳の実務経験、ならびにキングレコード株式会社での英仏独文翻訳およびライナーノート執筆の実務経験を持ちます。

授業内容

英会話ならびに英文法を、主に洋楽を用いた音楽的観点から学びます。文法は義務教育レベルの基本を主軸とし、限られた語彙・学習量での最大限のコミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

英語は難しい勉強であるという心理的なブロックを排し、母国語と同じような仕組みの上になり立っているコミュニケーションツールであるということ、および西洋音楽発展の歴史のうえで極めて密接な関係にあるということを理解する見地を育みます。

授業計画（1回目から7回目）

- ① 科目概要：講師自己紹介ならびにコース説明
- ② 音節(1)：英語の基本概念となる音節についての説明、ならびに子音と母音の分離
- ③ 音節(2)：音節の教え方および発音実習
- ④ SVO 基本文型：英語の核となる SVO 基本文型（主語・動詞・目的語）とその応用性。春学期に引き続き、最重要テーマのため復習します
- ⑤ コミュニケーション演習(3)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑥ 歌唱：詩や楽曲構造の解説の上、英語歌曲の演習
- ⑦ クォーター末試験：歌唱試験

中間試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。
口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧ コミュニケーション演習(4)：様々な文型の例文を用いて、生徒間での質疑応答ならびに会話演習を行います
- ⑨ クリスマスキャロル歌唱：西洋において重要な音楽文化であるクリスマスキャロルについての説明と歌唱
- ⑩ 総復習：冬期休暇明けのため、第3クォーターを含む学習内容の総復習
- ⑪ コミュニケーション演習(5)：グループで単語当て人狼ゲーム「ワードウルフ」を行い、コミュニケーション能力と言い換えスキルの獲得
- ⑫ コミュニケーション演習(6)：同上。より大人数でのグループ分けによるディスカッション形式でのゲームの成立を目標とします
- ⑬ 期末試験準備(1)：少人数グループでの英語楽曲歌唱試験に向けての楽曲の開示ならびに解説
- ⑭ 期末試験準備(2)：同上。上記楽曲の実技演習
- ⑮ 学期末試験：グループでの英語楽曲歌唱試験

期末試験評価方法・評価基準

歌唱試験を行います。

口のフォームや英語本来のリズムに沿ったフレーズ感であるか等を評価します。

出席：50% 平常点：30% 試験：20%

特記事項

秋学期は春学期から継続しての受講者と新規受講者が混在するため、カリキュラムが大幅に変更される可能性があります。

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 a
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	春
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Nice to meet you! 自分から挨拶してみよう
- ②I'm from Japan. 自分の出身地を紹介しよう
- ③What's her name? 友だちにインタビューしてみよう
- ④Where do you live? その人のことを一言で表してみよう
- ⑤She is interesting. その人の特徴を伝えよう
- ⑥This is my mother. 自分の大切な人やものを紹介しよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分アピールの発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Three pizzas, please. いくつ欲しいのかを伝えよう

- ⑨How much is this bag? 買い物をしてみよう
- ⑩Where are my keys? 家の中に何があるか教えよう
- ⑪Is there a bus to the airport? 行きたい場所をたずねてみよう
- ⑫What time does the library open? 時間を伝えよう
- ⑬I go shopping on weekends. 週末には何をするかを伝えよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、週末の予定を紹介しよう

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	声優学科
科目名	英会話初級中級 b
担当講師名	高梨 朋子・酒井 佳奈子
学期	秋
授業の形態	演習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

このコースではいろいろなテーマを基に、自分が言ってみたい、聞いてみたいと思う体験を積んでいきます。チャンツのリズムを楽しみながら英語表現を身につけ、英語を聞く楽しさ、英語を話す楽しさを実感します。英語の曲も歌います。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

学期の終わりには、自分の英語で伝えたいことを発表し、外国人と進んでコミュニケーションできるようになることが目標です。

授業計画（1回目から7回目）

- ①Where do you work? どんな職業に就きたいかを伝えよう
- ②I do karaoke on Wednesdays. 普段していることを話してみよう
- ③I can play baseball. できることができるのかを伝えよう
- ④I like Italian food. 簡単に作り方を教えよう
- ⑤Can you call back later? 電話をしてみよう
- ⑥Would you like to go to the movies? 上手な返答の仕方を考えよう
- ⑦Presentation（発表） 今まで習った英語で自己紹介や自分をアピールする発表を行います

中間試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%
 今求められる英語力とはコミュニケーションする力です。評価は普段の出席及び、間違いを恐れずに自分の思ったことを英語で表現しようとする態度を重視します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧Please don't play loud music. ルールについて話してみよう
- ⑨I have a headache. 症状を伝えよう
- ⑩I'm going to go sightseeing. 休暇に何をするか話してみよう
- ⑪How was your vacation? 休暇の思い出を伝えよう
- ⑫How much do you spend each month? お金の使い方を話してみよう
- ⑬How do I get to the bank? わかりやすく道案内しよう
- ⑭Review 今学期の総復習をしよう
- ⑮Presentation (発表) 外国人レッスンの中で、休暇の思い出を紹介します

期末試験評価方法・評価基準

出席点 30%、平常点 30%、発表点 40%

コミュニケーションに必要なのは、難しい単語や文法よりも、何とか相手に伝えようとする気持ちや態度です。評価は普段の出席及び、学んだ英語を使って自分の思いを伝えたり、進んでコミュニケーションしようとする態度を重視します。

特記事項

学科名	声優学科
科目名	インターンシップ I
担当講師名	
学期	春
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認める制作会社、劇団、プロダクション等の依頼で出演の機会を得たり、オーディションを受けたり等することで現場での実践経験を積んだり、卒業後の所属を決定したりします。

また、学校等を訪問し実演を行ったりします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プロが行う現場で収録の機会を得るため、自分の出演作品が業界に出て多くの人の目に触れることとなります。また、進路決定オーディションの場合には、自分の卒業後の目標を具体的に叶えることが出来ます。

学校等では、高校生や子供たちに自分達のパフォーマンスを披露することで、実演家としての交流や感動を実感できます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

得られた経験による積極性、向上心、責任感、現場対応能力等を評価、また、オーディション結果を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

得られた経験による積極性、向上心、責任感、現場対応能力等を評価、また、オーディション結果を評価します。

特記事項

他学科卒業生が活躍する企業からの出演依頼もあります。
文京区主催のコンサートなどの MC 依頼等の実績もあります。

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点はご了承ください。

学科名	声優学科
科目名	インターンシップⅡ
担当講師名	
学期	秋
授業の形態	実習
専攻/楽器/グレード等	

担当科目に関連する実務経歴

授業内容

学科が認める制作会社、劇団、プロダクション等の依頼で出演の機会を得たり、オーディションを受けたり等することで現場での実践経験を積んだり、卒業後の所属を決定したりします。

また、学校等を訪問し実演を行ったりします。

到達目標（この授業で何ができるようになるのか）

プロが行う現場で収録の機会を得るため、自分の出演作品が業界に出て多くの人の目に触れることとなります。また、進路決定オーディションの場合には、自分の卒業後の目標を具体的に叶えることが出来ます。

学校等では、高校生や子供たちに自分達のパフォーマンスを披露することで、実演家としての交流や感動を実感できます。

授業計画（1回目から7回目）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

中間試験評価方法・評価基準

得られた経験による積極性、向上心、責任感、現場対応能力等を評価、また、オーディション結果を評価します。

授業計画（8回目から15回目）

- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮

期末試験評価方法・評価基準

得られた経験による積極性、向上心、責任感、現場対応能力等を評価、また、オーディション結果を評価します。

特記事項

他学科卒業生が活躍する企業からの出演依頼もあります。
文京区主催のコンサートなどの MC 依頼等の実績もあります。

特別な状況下においては、学外活動や企業研修が実施されない場合もありますのでその点はご了承ください。